



六根清淨後圖會  
下

特別  
イ 4  
3163  
172(3)



14  
3163  
172(3)



六根清淨大教圖會卷之下

撰都 蓮室有常編述

身曾貴教

夫身身曾貴の教除て以て根の後のことを總して延喜式廣略より載く  
 七捨命當の後も是と以て邪滯とする哉律代は修學無尊劣中軻遇突利とす  
 身まづらむて教きて修學諸尊の淨斷とすむすヲ擯じきと具わの別吾身の縁はし  
 と雖も然んとて日向の十戸の橋の橋を奪うて身を擯るははして身曾貴教といふの就  
 且つ之はよ所を妻の身滯或ハ水滯の別もいふ是法中の滯りて後法ははし  
 ともしふとても律代曰決曰後除ハ漏擯の身とて後法ははしと云抑は橋を奪す

六根清淨大教

二の嶽の上津波が甚速一上津波甚弱と申津波を溜りたる之が  
九神六神出づりし之の儀の所為其後ハ伊弉諾尊の旨命なり

揚の小戸乃身雖ともあつて今も流る我身かた見え 下郡 惠邦

周より伊弉册尊神去りて紀伊の國有馬村の事其の土俗の神の魂を  
毎節言其の比ハ夫人繩を以て懐妊し遠く津波と申す繩の向は垂して其の  
いへて是の上の敷敷糸と申す古風の縁方と作ぐ今其儀の起す

伊弉册尊の魂は成りて人馬のひらけ懸る白馬神  
あはれまをたててするこの神乃の魂は世の魂の氣のまはるといふは  
世の年月八日と記すて毎一節のひらけ懸る白馬神



伊弉册尊の魂は成りて人馬のひらけ懸る白馬神  
あはれまをたててするこの神乃の魂は世の魂の氣のまはるといふは  
世の年月八日と記すて毎一節のひらけ懸る白馬神  
伊弉册尊の魂は成りて人馬のひらけ懸る白馬神  
あはれまをたててするこの神乃の魂は世の魂の氣のまはるといふは  
世の年月八日と記すて毎一節のひらけ懸る白馬神

下長青毎六夜

下

一



我民神の神号を唱へて止む者之候も此は後之義なりて神は極多の所  
教に我白王國を治してかゝる事をもつて治す最也と云ふに於て我民の  
治す者も人々を治す後之文多と教候とて律教と云ふ事なり

高天原仁神 晋坐須皇親神 漏岐神 漏美乃

命乎以天

此高天原仁神の事也其神居於天原之極也其後之義也云々天原の事神乃の

本事也其後之義也其後之義也云々其後之義也云々

日向乃橋乃小門憶原乃九柱神

○日向乃の神乃の國を治して其後之義也云々其後之義也云々  
日向乃の神乃の國を治して其後之義也云々其後之義也云々

日向乃の神乃の國を治して其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

其後之義也云々其後之義也云々其後之義也云々

於潮上因以生神號曰表津少童命次表筒男命云

以上九柱神也尊号亦付之... 神三神三神六神九神九神之傳人... 於潮上因以生神號曰表津少童命次表筒男命云... 此の世の事も... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神...

天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神... 天日之尊と号するも... 八十八柱八百八十の神...





かく織悔の爲に法をえん世金目外娘と爲の孫人たる三ひ故なる根上能信と  
 有む事此世より後世も人々の心一つもあらずして皆の心なるらん  
 是れ有りは小長は金の焼はり出ればさうと云ふおぼの事さうと云ふ  
 上は法を言ふの根を有るればさうは金柱おとれば根も私に教を授けて  
 今ゆひ今言は信の信神是を案の事起す除る所世中生はりて古而及て後わ  
 今身有り申ふは法を言ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 半らぬと云ふもさうして法を言ふ信神も大に後悔する所もさうはさうと云ふ  
 は是をえと云ふ私わ法を言ふと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 せん又云は法を言ふ友人おとれば夫へ法を言ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 ちらぬと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ

世納此画の下にけられ天満燒小原堂とあり今区に居る其まの衆生もなると  
 ありと云う神のありさうと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 香典はさうと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 さうして法を言ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 と云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 伝世もさうと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 ありと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 湯屋は法的な身をも世の法を言ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 ○神直日神と云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ  
 其世もさうと云ふ事此世の世教へ出を案信神の神性を有る事と云ふ



神慮の成て妻とくしを神心の子を産まざるのや天より重なる心の果の成り  
 して曲るといふまゝの産の成るとして相曲る老と矯せんと天自一件の大直智の神の  
 わらんと力を為る物を願ふ死の神なり○大直智神を上の解せとくまゝ天の成  
 まるゝと多かるゝまゝ産れまゝ多かるゝ神老と太直智の神と申へ大の神次の成り  
 信ずるの神の神と申して来る天日小神をまゝるゝ死の神なり三神は信  
 めるとして信は信も年やと太直智の二神は信なり三神二神の傳といふ  
 ○底津古事命といふ是海原をまゝ守備神と信ずるまゝ是は底津古事命  
 と名有りまゝ守備を付て固より海原の号は水の能汚穢と濁りてえと案  
 流する流も半根津も老と海水と以濁穢とて太直智の神と欲して信ずるまゝ  
 の清水と致しあはれ海原の号とては信ちる死の神号と名なるまゝるゝ少重ハ



六根清浄大蔵

下

海の名と云てとて海ありは海神とて  
 信之海といふは信智を以て信の神なり  
 顯るゝ海神の神なり信の神なり  
 始とて又海中出づるの神なり信の神なり  
 ○底津古事命といふ是は海原をまゝ守備神と信ずるまゝ是は底津古事命  
 と名有りまゝ守備を付て固より海原の号は水の能汚穢と濁りてえと案  
 流する流も半根津も老と海水と以濁穢とて太直智の神と欲して信ずるまゝ  
 の清水と致しあはれ海原の号とては信ちる死の神号と名なるまゝるゝ少重ハ





清瀬の文武の達人... 此の神は... 天の御魂... 東の果... 此の神は...



太田道灌山吹の... 一柱の神

天地と初... 鬼神も威... 極き武士... 此の神は... 守りせよ... 此の神は... 粟水門及比速吸名門 乃六柱神達





一曰守統へとの別名と以神初儀あり所名之諸神ありの所一云天地と書てそ  
 のちてんか ねーささる しのり ちまきさくさくみらのまきま ちせうさくさく  
 後天若孫とて言ふまゝと約ありの天照太孫神孫也言りまゝ皇の太祖あり天より  
 今上皇帝迄内皇系一筋あり事と思ひ儀言所約はまゝ此神皇の妙ありことと  
 思て今とても遠祖神心とて約は神孫の感念懸ひはとまり也言儀言るごとくお  
 言の文字童とて是人体かろるごとく人体の皇道一筋ありこと級の事神の如と  
 約念りけし約るごとく思ふ言ふまゝ天孫津日神と顯しあり凡天の泰平の儀言  
 道の中へはつたは吾皇國の國關より必承皇道承一すじ也源小天の二の日の  
 地三のまゝとて是也皇國のこは國と日本と云始之も國とて皇國とて皇國と  
 明とて唯世系と改むこと專らとすん吾皇の神國をかく知らんし  
 ○大地海系傍神とて皇女皇女海神及び日の神の御ありまゝとて皇國の

一曰守統へとの別名と以神初儀あり所名之諸神ありの所一云天地と書てそ  
 のちてんか ねーささる しのり ちまきさくさくみらのまきま ちせうさくさく  
 後天若孫とて言ふまゝと約ありの天照太孫神孫也言りまゝ皇の太祖あり天より  
 今上皇帝迄内皇系一筋あり事と思ひ儀言所約はまゝ此神皇の妙ありことと  
 思て今とても遠祖神心とて約は神孫の感念懸ひはとまり也言儀言るごとくお  
 言の文字童とて是人体かろるごとく人体の皇道一筋ありこと級の事神の如と  
 約念りけし約るごとく思ふ言ふまゝ天孫津日神と顯しあり凡天の泰平の儀言  
 道の中へはつたは吾皇國の國關より必承皇道承一すじ也源小天の二の日の  
 地三のまゝとて是也皇國のこは國と日本と云始之も國とて皇國とて皇國と  
 明とて唯世系と改むこと專らとすん吾皇の神國をかく知らんし  
 ○大地海系傍神とて皇女皇女海神及び日の神の御ありまゝとて皇國の

ことごとく... 諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎

○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎

○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎  
○諸の汚穢平枝賜清賜陪止申壽事乃由乎

六良青華大友

下



〇清湯と申す神後...  
 〇此又三言...  
**左男鹿乃八耳於振立天聞食止申**  
**一切成就後**  
 〇此又三言...

〇此又三言...  
 〇此又三言...



法海なりと知るべし文法海なり是一切の法海なりと知るべし

極汚毛滯無 礼波穢者有 羅之

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし  
これハ世の汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

○極て此の世の事とて汚も滯も穢も無き法海なりと知るべし

これ ぬらりたるを ぬらりたる ぬらりたる ぬらりたる

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か

夫神ハ穢也と明して此海ノ守と云ふ本此ノ人々も文化年中の頃か







明の春衣の色も長閑なる富の向う  
 来る小若子の相あつて初めは死ねり  
 う須臾もて却く西園は遠なりぞと  
 傍よりとあつたる方とて昔は  
 春衣の色も長閑なる富の向う  
 来る小若子の相あつて初めは死ねり  
 う須臾もて却く西園は遠なりぞと  
 傍よりとあつたる方とて昔は



えは素よの朋友いじが  
 とんが思ひを我れとて  
 かくのあつた己が利  
 る念九すちと懐中  
 仲兵ひにじと迫ら  
 母の教訓  
 誰かあわれと  
 想ふを身とすれ  
 ぬらるいほと肉  
 是れおんの物  
 友よの素よの  
 とんが思ひを  
 かくのあつた  
 る念九すちと  
 懐中かゝる  
 仲兵ひにじと  
 迫らるる  
 母の教訓  
 誰かあわれ  
 と想ふを身  
 とすれぬら  
 るいほと肉  
 の物







と解するの... 國の... 神武天皇... 長蛇... 神武天皇... 國の... 太平の... 推古... 長く...

○上... 十... 神... 皇... 初... 雨... 於... 傳... 皇... 統... 中... 也... 臣... 六... 傳... 皇... 是... 皇... 統... 之... 始... 也... 皇... 統... 之... 始... 也... 皇... 統... 之... 始... 也...

六根清律大板圖會卷之下 畢

心學 三畏一心記圖會

平安故上河湛水先生遺稿 全三冊

要解 此一名三畏一致也... 洛東春屋鐵月老叟神訂

金毛狸靈驗記圖會

蓬室有常著 三冊 近刻

此書を金毛狸所起す... 禁書の抄本也

嘉永六年癸丑正月新刻

發行

書林

- 同日本橋通南二丁目 須原屋茂兵衛
同浅草草莽町二丁目 須原屋伊八
同早橋通二丁目 山城屋佐兵衛
同芝神明前 岡田屋嘉七
同下谷御成道 紙屋徳八
京三條通寺町 丸屋善兵衛
大阪平野町御靈筋 石川屋和助
同心齋橋通順慶町 秋田屋幸助
同心齋橋通安堂寺町 秋田屋太右衛門

